

69. 本県に産する在来イワナの形態的特性

福島県内水面水産試験場調査部・平成10～11年度渓流域生態系管理手法開発事業報告書

- 1 部門名 水産業－内水面（増養殖）－溪流－イワナ 分類コード 19-99-24600000
- 2 担当者 廣瀬 充・成田 薫
- 3 要 旨

地理的に隔離された在来イワナ系群は、集団間の変異が大きく、その維持保全が求められている。現在、本県内における在来系群は希少であるが、その形態的な特徴は把握されていない。そこで、本県阿賀川水系に生息する在来ニッコウイワナを対象に調査を実施した。

(1) 内部形態

計数形質として、地域集団の変異を反映するとされる幽門垂数、鰓耙数について測定を実施した。幽門垂数は、 21.9 ± 2.9 であり、鰓耙数は、 14.1 ± 1.0 であった。放流河川におけるニッコウイワナについても同様に計数しt-検定をしたところ、幽門垂数について有意差がみられた。

(2) 斑紋形態

外観的な特徴として、地域集団の変異を反映する体表部の斑紋について、記録および測定を実施した。ニッコウイワナの特徴といえる有色斑紋について、大きさを瞳孔径との比で見ると 0.84 ± 0.14 （有色/瞳孔径）、白色斑紋と大きさを比較すると 1.4 ± 0.3 （有色/白色斑紋径）であった。分布数については左側面の計数で 62.6 ± 15.9 （平均全長 20.5 ± 1.3 cm）、色調は生体をデジタルカメラで撮影後、adobe-photoshopによって数値表示したところ色相34度、彩度56.4度、明るさ72.5%であった。また、背面部の紋様について、背鰭の前部から頭部にかけての紋様を3類型（虫クイ、丸、虫クイ～丸）に分けて、その出現頻度をみたところ、虫クイ79.5%、虫クイ～丸5%、丸15.5%で虫クイが多く出現する結果であった。放流域での混交等の影響をみるため、同河川の放流域でも同様に調査を実施したところ、虫クイ54%、虫クイ～丸23%、丸23%と、虫クイ～丸の出現が多く出現することが確認された。